

ファミリーホーム研修アドバンス編そのII
(2021.3.4: ネット研修会)

愛着障害の理解と支援

和歌山大学教育学部 米澤 好史
(臨床発達心理士スーパーバイザー・上級教育的セラ
学校心理士スーパーバイザー・ガイダンスカウンセラー)

●はじめに：～トータルな支援～
①様々なニーズ支援②生涯発達(赤ちゃん～大人
まで)支援③現場主義(保幼小・学童中高支福医施)

[専門分野:臨床発達心理学・実践教育心理学・

臨床認知心理学・人間関係心理学]

(発達臨床・発達支援・発達障害、愛着障害支援・

子育て支援・行動問題支援:攻撃性・いじめ・不登校園)

(学習臨床・学習診断・学習支援・保育実践・授業づくり・

学力向上・意欲支援・保幼小中連携)(認知・思考・記憶の

特性診断と支援)(人間関係支援・生徒指導・自己理解

エンカウンター・SST・心理教育・学級経営・ストレス・人間関

係トラブル・仲間づくり・集団づくり・グループ活動)

⇒ニーズと支援のミスマッチを防ぐ実践ニことにも理解

事例でわかる! 愛着障害

現場で活かせる理論と支援

米澤好史の愛着障害 愛着の問題を抱える子どもをどう理解し、どう支援するか?

愛着関係の発達の理論と支援

「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラム

「やさしわかる! 愛着障害」

「事例でわかる! 愛着障害 - 現場で活かせる理論と支援」

「愛着関係の発達の理論と支援(本郷一夫監修シリーズ支援のための発達心理学)」

★主な著書(米澤好史 著):

①発達障害・愛着障害 現場で正しく子どもを理解し、子どもに合った支援をする「愛着の器」モデルに基づく(愛着修復プログラム) 福村出版 (2015. 10)

⇒④愛着障害・愛着の問題を抱える子どもをどう理解し、どう支援するか? - アセスメントと具体的支援のポイント51 - 福村出版 (2019. 8)

②「やさしわかる! 愛着障害 - 理解を深め、支援の基本を押さえる -」 ほんの森出版 (2018. 7)

⇒⑤「事例でわかる! 愛着障害 - 現場で活かせる理論と支援を -」 ほんの森出版 (2020. 6)

③「愛着関係の発達の理論と支援(本郷一夫監修 シリーズ支援のための発達心理学)」

米澤好史(編著) 金子書房 (2019. 3)

➤『問題行動』?

- 問題な行動×
⇒行動の問題を抱えてしまうこと
≠行動の原因追求より行動改善 = 応用行動分析・認知行動療法
- 行動の問題をなぜ抱えてしまうのか?
←『愛着の問題』としての視点
- 行動の問題をなくすには?
⇒×行動そのものへのアプローチ
○愛着(形成・修復)の支援
→子どもとかわるすべての人の連携支援体制

○愛着(アタッチメント)の基本原理

[特定の人と結ぶ

情緒的な

こころの絆]

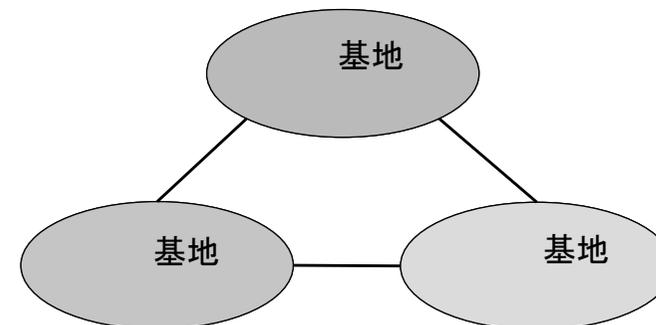
★間違った愛着障害の理解

- ①施設、虐待だけに特有×⇒通常家庭
愛着障害は[誰にでも]起こりうる
- ②産んだ、育てた親のせい×⇒
[関係性]の障害 = [相性]
- ③取り戻せない、手遅れ×⇒
× 臨界期・敏感期
[いつでも]取り戻せる
- ④親にしか形成・修復は無理×⇒
[誰にでも]形成・修復可能

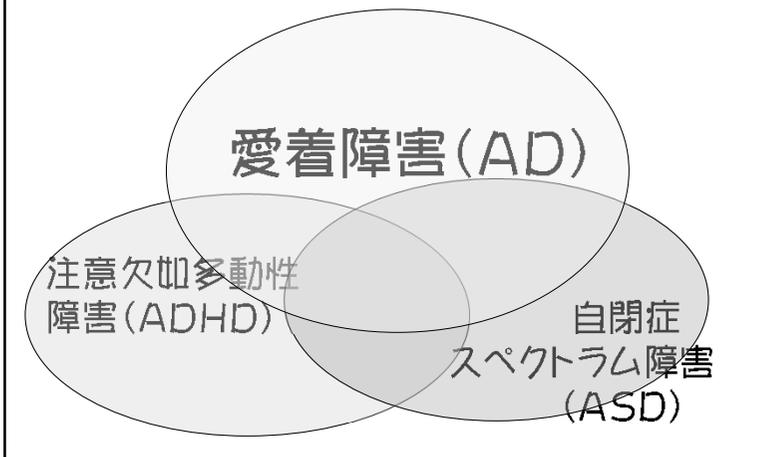
★親以外の関係性構築が親子関係の改善につながる!

愛着形成のための3つの基地機能

(米澤, 2019c; 2020c; 2020d)



◎発達障害と愛着障害



資料4:愛着の問題発見のチェックポイント[超簡略版](米澤, 2015e参照)

- ①[多動] 現れ方の違い
- ②[モノ]との関係⇒移行対象
- ③[口]の問題
- ④[床]への接触
- ⑤[姿勢]・[しぐさ]・[服装]
⇒[]基地機能

⑥[ト]への接触

2つの正反対のタイプの存在

⑦[危険な]行動⇒[]

[愛着障害の3大特徴(米澤, 2019e)]

- ⑧[愛情欲求]行動⇒[]基地
[.]行動・
[愛情]行動・
[愛情欲求]現象 ⇒ []
- ⑨[自己] = . .
- ⑩[自己評価]の低さ⇒[]基地機能
[自己]・[自己] =

⑪片付け・1/1-1/1⇔ADHDとの違い

[実行(遂行)機能]⇔[]の問題
 ⇨[]・[]基地機能

⑫[]障害+愛着障害⑬(精神医学界と異なる見解)

⇔ADHD?衝動的攻撃?

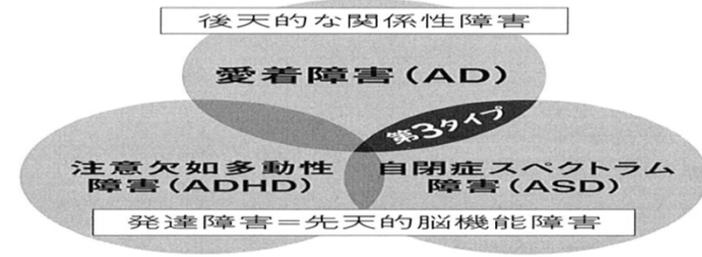
普段の特徴=[]
 ()・ ()

⑬関係性の視点=愛情の[行き違い]

≠愛情をかけたか

○発達障害と愛着障害の関係

先天的な脳障害を持って生まれてきた発達障害のこどもが、後天的に関係性障害である愛着障害を併せ持つことは、当然ありえる。精神医学会ではまだ認められていないが、愛着障害の支援では、発達障害と愛着障害を併せ持つこどもがいるという理解が絶対必要である(米澤, 2020a; 2020b)。



〈図1〉発達障害と愛着障害の関係

発達障害と併せ有する
愛着・ゲーム・睡眠・不安
 の問題

インターネットゲーム障害

発達障害

不安障害

発達障害の診断名に置けない視点で、一人ひとりの複雑な背景を考慮するスキルが求められている。本特集では、発達障害の子どもたちに隠れやすい愛着障害・インターネットゲーム障害・睡眠障害・不安障害をテーマに、その理解と支援について解説する。

月刊実践障害児教育2020.6月号(古荘, 2020; 米澤, 2020a)

本来は別の疾患概念	発達障害類似症状	後天性PTSD類似の症状	成人精神科臨床診断
発達障害	この二つを失った学習注意の低下	トラウマ症状に	発達障害+併存症
愛着障害	リソシマ	1) 気分変動	人感障害
ゲーム障害	多動性	2) 低い自己概念	トラウマ関連障害
睡眠障害	不安障害	3) 対人関係構築困難	気分障害
乳児・幼児期	学童期	思春期・青年期	成人期

⇨発達脆弱性・(精神的弱さ)による昂進化相補行動としての現れ(米澤, 2019e) []

●[多動][モノ]との関係⇨[]障害()

[]問題

●[口]の問題+[]低]⇨[]障害

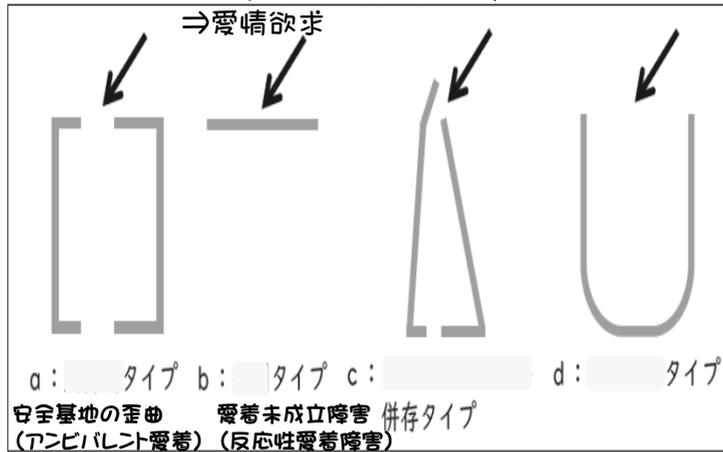
●[危険][自己][自己][愛情欲求]⇨[]

●[モノ]との関係⇨[()]

●[モノ]+[アピール]⇨[]・[]

●[姿勢・しくさ]+[]⇨[]・[]

図 「愛情の器」モデル (米澤, 2019a; 2019c)
(habituation:)



資料7: 愛着修復プログラム (ARPRAM)

①受け止め方の学習支援

②子ども主体・大人主導の働きかけ

③他者との関係づくり

④自立支援

4つのフェーズを行きつ戻りつの支援

●「愛情の器」づくりとは？

・[]で「キーパーソンと
なら」を意識⇔刺激過剰

・「子どもが欲しがらる」前に、
[]でかかわり愛情を！

⇒愛情の器の 支援

・[]学習(を教える)

⇒愛情の器の 支援

★心理教育プログラム・SSTとの違い

⇒心理専門家でなくても、誰でも(親・保育士・教師・指導員・児童生徒)が、どの発達段階の子ども＝誰にでも(乳幼児、児童、生徒に)実際の保育・教育で実施可能⇒実際の生活に埋め込まれたプログラム＝(いつでも・どこでも・現場で)できる≠応用の問題・閉じた学習効果⇒開かれた応用効果(普段の支援改善)

●基地機能支援の方向性

・[]基地(感情の共有)
 = になれる=
 ⇔

⇒[]基地(感情克服)
 =困ったら ことができる=
 ⇔

⇒[]基地(による感情増減)
 = を、 を
 ⇔

⇒精神的自立

資料8：叱ると褒めるの意味

[叱るの意味]

③(情報提供) [何がよくないか]
 ④叱らない影響(腫れ物に触る⇔
 ・どうでもいい存在解釈) 防止

[褒めるの意味]

①(自己)感⇒(自己)感
 ⇒(自己)感を育む

②自己との()=[]

★3タイプ別対応のまとめ

①DSED(タイプ)
 を意識した 支援
 振(返)の

②RAD(タイプ)
 確保=場所・作業・人≠危険
 体験をしても大丈夫な
 ⇒ ⇒

③ASD+ADタイプ

○愛着障害と発達障害を併せ持つこどもへの支援

★ADHD(注意欠如多動性障害)

➢振り返り困難(×)

➢抑制制御の困難(×)

➢遅延報酬の嫌悪(×)

★ASD(自閉症スペクトラム障害)

➢認知の偏り(・知覚)

➢自己認知・対人認知の困難さ

➢感情認知の問題

☆愛着の問題()

○様々な行動の意味と支援

「母の前で暴れる」「被害意識」「物欲」「飛び出し」
「虚勢のうしろ」「泣きわめく」「モノを壊す」
「つば吐き・吐き食べ」「遺糞・遺尿」「固まる」
「こだわり」「嫌がられ喜ぶ・褒められたら怒る」
「他者の弱点言いふらし」「ダイビング」
「しようとなし」「共鳴的攻撃」「制止・説諭への反発」
「要求エスカレート」「性的問題」
「クールダウン拒否」「キーパンク争奪」
「保護者・他の教師、保育士対応」等(※澤,2019e)

参考文献Ⅱ

・山本敬三・※澤好史 2018 愛着の問題を抱えることへの行動に関する研究－愛着の問題行動尺度作成と意欲・愛着タイプとの関連－ 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 68(2), 17-29.
・※澤好史 2018a やさしくわかる！愛着障害－理解を深め、支援の基本を押さえる－ ほんの森出版.
・※澤好史 2018b ことへの安全基地・安心基地・探究基地になれる親 月刊児童心理(金子書房), 8月号, 52-57.
・※澤好史 2018c 発達障害と愛着障害 発達障害白書:2019年度版(明石書店), 62-63.
・※澤好史 2018d 愛着障害の実態と対応・支援 指導と評価(日本図書文化協会), 12月号, 12-14.
・田並幸恵・※澤好史 2019 未就園児を育てる母親の養育態度とソーシャルサポート・自己評価の関連－愛着形成の視点から－, 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 69, 27-34.
・中井博由美・※澤好史 2019 中学生の教員への期待特性・認知特性と自己の認知特性、および学力との関連, 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 69, 35-44.
・※澤好史[編著] 2019a 愛着関係の発達の理論と支援 金子書房.
・※澤好史 2019c 「事例でわかる！愛着障害」 月刊学校教育相談(1年連載), ほんの森出版.
・※澤好史 2019d 愛着障害と性に関わる問題行動 小野善郎(監修) 児童青年の発達と「性」の問題への理解と支援 自分らしく生きるために包括的支援モデルによる性教育の実践 福村出版.
・※澤好史 2019e 愛着障害・愛着の問題を抱えることへどう理解し、どう支援するか？－アセスメントと具体的な支援のポイント－ 福村出版.
・園で治す愛着障害－キーパンクはあなた！－(監修) PriPri(世界文化社), 2020.6月号 66-70.
・※澤好史 2020b 「愛着障害」と発達障害の違い・見分け方と支援のあり方 月刊実践障害児教育, 6月号, 12-15, 学研教育みらい.
・※澤好史 2020c 事例でわかる！愛着障害－現場で活かせる理論と支援を－ ほんの森出版.
・※澤好史 2021a 愛着障害はいつでも誰にでも適切なかわりで修復できる(飯野・近刊) 合同出版.
・※澤好史 2021b 精神障害の理解と支援(近刊) 本郷一夫・大伴淑(編著)「障害者・障害児心理学」ミネルヴァ書房.

参考文献Ⅰ

・藤田裕理子・※澤好史 2009 デートDVに影響を及ぼす諸要因の分析とDV被害者認識の明確化による支援の試み 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 19, 9-18.
・田邊恭子・※澤好史 2009 母親の子育て観からみた母子の愛着形成と世代間伝達－母親像に着目した子育て支援への提案－ 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 19, 19-28.
・※澤好史 2012 ことへの学習意欲・人間関係に与える受容の効果－調査研究と発達障害への支援事例から導かれる「愛着の器」モデル－ 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 62, 1-8.
・宮崎純一・※澤好史 2013 小学生の学校生活における意欲特性、因果性の所在認知及び認知された教師の取り組み・印象の関連 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 23, 21-33.
・※澤好史 2013 愛着障害・発達障害への「愛着の器」モデルによる支援の実践, 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 63, 1-16.
・※澤好史 2015b 学校現場における学校心理学研究の動向と課題－ことごとくを取り巻く環境への支援の方向性を探る－, 日本教育心理学会・教育心理学年報, 54, 112-125.
・※澤好史 2015c しじめ等の問題行動の背景の理解と対応－愛着障害の視点からみた子ども理解と支援－ 教室の窓「データで読む教育の今」(東京書籍), 4月号, 38-39.
・※澤好史 2015d 「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラムによる支援－愛着障害・愛着の問題を抱えることへの支援－ 臨床発達心理実践研究, 10, 41-45.
・※澤好史 2015e 「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラム－発達障害・愛着障害 現場で正しく子どもを理解し、ことごとく合った支援をする－ 福村出版, 全254頁.
・※澤好史 2016a 愛着障害・愛着の問題を抱えることへの理解と支援－愛着の問題のアセスメントと「愛着の器」モデルに基づく愛着修復プログラムによる支援－, 日本学校心理士会年報, 8号, 17-28.
・※澤好史 2016b 愛着の問題を抱えることへの理解と支援－愛着障害と発達障害の違いと対応－ 月刊学校教育相談(ほんの森出版), 6月号, 22-27. ⇒2017年度連載(2017a)「愛着の視点を支援とかわり」
・※澤好史 2017a 愛着修復プログラムの実践－愛着障害・発達障害への支援－ 臨床発達心理士 わかりやすい資格案内[第3版] 学会連合資格「臨床発達心理士」認定機構(編) 金子書房, 91-93.

・ありがとう

ございました～

更に詳しいお話が必要と感じられましたら、
研修会、事例検討会にお呼びください。
個別の子どもへの支援等、ケースの
ご相談があれば、よろしく願います。

★連絡先:

yonezawa@wakayama-u.ac.jp